

地域の概要



薩摩半島の南端に位置し、市域は、東西12km、南北10kmで、その形状は、ほぼ五角形です。風光明媚な豊かな自然に恵まれ、日本一の「かつおのまち」として全国でも有数の港町です。高齢化率は、42.4%と高く、男性高齢者の社会参加が地域の課題となっています。

取組のきっかけ

少子高齢化や核家族化の進行に伴い、高齢者の一人世帯や夫婦世帯が増加している中で、高齢者などが住み慣れた地域で暮らし続けることができるようにするため、地域での人との関わり合いや地域の資源などをマップにし、地域の皆さんで情報を共有し、地域について考える機会づくりとした。

取組の目的

- 地域を見える化し、地域の課題を共有
- 支援が必要な方への互助活動の推進

これまでの経緯

年・月	出来事
平成28年2月	てげてげ広場第1号（金山公民館）活動開始。ささえ愛マップ1回目、参加者へ印しをつける。
平成30年9月	ささえ愛マップ（金山公民館）2回目 地域の資源、関わり合いのある人に印しを付ける。
令和元年10月	ささえ愛マップ（金山公民館）3回目 地域の良いところ、困っているところを考える。
令和3年12月	ささえ愛マップ（金山公民館）4回目 防災、避難について考える。
	他18公民館も順次開催している。年間5カ所程度。

活動の概要

住民主体の介護予防のための集いの場である「てげてげ広場」の参加者で、「ささえ愛マップ」をつくり地域の情報を共有し、課題を出し合い、その解決について考える。

- [頻度・利用人数]
- ・年に5カ所程度（現在19公民館）
 - ・てげてげ広場の参加者（10名～20名）

- [活動に係わった人・団体]
- 生活支援コーディネーター、市、公民館長、民生委員、在宅福祉アドバイザー



取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| [行政担当者としての役割] | [SCとしての役割] |
| ●第1層協議体で今後の事業方針を説明 | ●ささえ愛マップづくりでのファシリテーターとしての役割 |
| ●SCと定期的な情報共有 | |

現時点での到達点（効果・課題など）

[効果]

地域のイメージを「見える化」し、さらに、「地域の良いところや困っているところ」を話し合うことにより、参加者全員が地域の実情や資源等を共有して、互助を含めた生活支援の課題や対応等について考える場となっている。

[課題]

てげてげ広場の参加者も男性が少ない。男性の社会参加が課題であり、個別の声を聞いてほしい。